

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

国語A:97 国語B:97 数学A:95 数学B:95

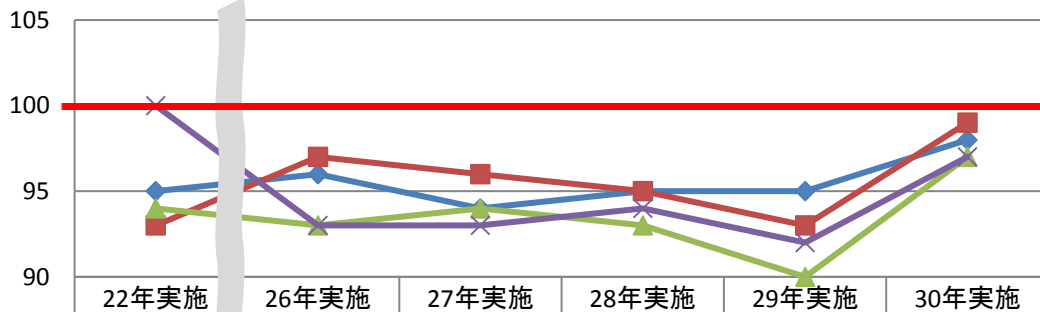
3.指標に向けての取組

- 個別指導やグループ別学習の時間の設定等、個に応じた指導を工夫する。
- 学習過程の一部において、根拠を明確にした自分の考えを書く活動や話し合う活動を確保する。
- 毎時間、振り返りを書かせ、それを基に説明する時間を確保する。
- 常時間や家庭学習において、「基礎基本を含む活用力を育成する教材」「全国学力・学習状況調査」等の問題から選択して提示する。
- 教科の宿題以外に自学ノートを毎日提出させる。
- 習熟度別に個別化された課題を週末課題にし、120分以上取り組ませる。また、月曜日の提出率を95%以上にする。
- 学年の実態に応じたPDCAサイクルをたて、定期考査・実力テストごとに学年、教科で検証し、共有化していく。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	98	99	97	97
嘉麻市	98	98	97	96
全国	100	100	100	100

推移



◆ 国語A	95	96	94	95	95	98
■ 国語B	93	97	96	95	93	99
▲ 数学A	94	93	94	93	90	97
✕ 数学B	100	93	93	94	92	97

5.各学校における分析

◆国語について

○国語A・Bとも、指標を達成することができた。

【成果が認められる取組】

- ・自分の考えを書く活動や話し合う活動を確保する。
- ・習熟度別に個別化された週末課題の実施

【課題がある取組】

- ・振り返りを書かせ、説明する時間の確保
- ・自学ノートの内容の充実
- ・定期考査問題を基にした検証

◆数学について

○数学A・Bとも、指標を達成することができた。

【成果が認められる取組】

- ・個別指導やグループ別学習の設定
- ・習熟度別に個別化された週末課題の実施

【課題がある取組】

- ・振り返りを書かせ、説明する時間の確保
- ・自学ノートの内容の充実
- ・定期考査問題を基にした検証

6.各学校における今後の取組

【基礎・基本の定着を図る取組】

○1単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。

○個別指導やグループ別学習の時間の設定等、個に応じた指導を工夫する。

【思考力・判断力・表現力を高める取組】

○单元ごとに、根拠を明確にしながら自分の考えを書き、それをもとに交流する活動を全教科で設定する。

○全学年、全教科において、定期考査に、活用問題(自分の考えを書くなど思考力を問う問題)を出題し、活用問題を意識した授業を展開しながら、知識・技能の活用への習熟を図る。

※活用問題には、「基礎基本を含む活用力を育成する教材」「全国学力・学習状況調査」等の問題を利用する。

【家庭学習の充実に向けた取組】

○教科の宿題以外に、その日の授業で学んだこと(5教科を中心)をまとめた自学ノートを毎日提出させる。

○習熟度別に個別化された課題(問題集)を週末課題にし、120分以上取り組ませる。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

[嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。]

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

高校入試問題等の定期考査への取り入れと生徒による授業評価を確実にを行い、その結果、日常の授業がどのように変容し「かく活動」がどのように充実したのかを年間を通して検証する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。

